

小売店 繁盛のコツ

【日本経済新聞社賞】
マルブ 百果園&百華園
(岐阜市)
社長 藤井 克己 氏

マルブ 百果園&百華園は、青果の小売店である「百果園」と、果物を使ったケーキなどの加工品を販売する「百華園」の2店舗を展開している。入口は別々だが、隣同士にあり気軽に入店できる。

「元気で、明るく、笑いの絶えないお店」をめざし、大手にはまねのできない「個性の尖った小売店」をコンセプトとしている。

インパクトのある商品・名前での感動を呼ぶギフトを提案する店

「百果園」は、高級青果専門店として1989年に開店。現在も、高級メロンの産地として知られる静岡県産のマスクメロン、地元・岐阜県産のカキ(富有)などは、最高品質のものを仕入れて販売している。価格は高めになるが、主に贈答用として販売してきた。

また、「感動を呼ぶギフト」を提案



できる店であることを常に意識している。品質はもちろんのこと、一番の旬で味も香りも最高に乗ったタイミングで販売し、包装まで細かく気遣う。

同店の包装紙は他の果物店と違い、どこにも果物の柄や店名の印刷がない。1色の無地の包装紙にタックを挟み込み、おしゃれに包む。外見からは中にフルーツが入っているとは思えない。オープン当初は顧客からフルーツ店らしくないと言われたが、贈り先には好評で「フルーツとは思わなかった。ありがとう」と喜ばれ、今ではすっかり定着しているという。また、メロンに紙で目鼻を付けた「思わず笑っちゃいますふるっギフト」は、父の日や母の日、還暦祝いとして贈られた側が思

わす微笑んでしまうアイデア商品だ。創意工夫に満ちた商品を展開「あなたにメロンめろんケーキ」敷居が高いと思われるがちな高級店にも気軽に来店してもらい、品質の確かさを知ってもらうため、2013年には加工品販売の「百華園」を開店した。

商品開発では、その青果の価値を最大限に引出すように工夫する。どうすればインパクトのある商品になるか、形だけでなくネーミングにも凝る。

たとえば、20年に発売した「あなたにメロンめろんケーキ」は、マスクメロンの上部を横にスライスして中の果肉をすくい出し、メロン、イチゴ、マンゴー、キウイとスポンジ、生クリームを何層にもミルフィーユのように

重ねたもので、カットした断面がカラフルなケーキだ。購入しやすくするため、まるごと1個から4分の1カットまで揃える。もとは新型コロナウイルスで産地がダメージを受けていることを心配し、産地に貢献できればと思い開発したのだが、ネーミングも親しみやすく話題性のあるようにと工夫した。

働く人、生産者への思いを大切に開く人を成長させる店へ同店は、業務マニユアルを作成していない。家族経営とパート社員が主体で、勤続30年近い従業員もおり、業務の申し送りは口伝えで行い、従業員の自主性に任せている。顧客も担当の販売員についている。ダジャレとも思える商品名は、同

店のめざす「元気で、明るく、笑いの絶えないお店」の雰囲気づくりから生まれた。通信販売も行っており、SNSの重要性も認識しているが、だからこそ対面販売を大切にしたいと考えている。

また、小売店は生産者があってこそ、とも考える。地元の富有柿の生産者は年々高齢化し、畑の周辺は開発され生産しづらい環境になっていく状況を目の当たりにしている。「あなたにメロンめろんケーキ」が生産者の応援に意味があったように、常に店舗スタッフだけでなく生産者、流通業者など同店に「関わるすべての人を成長させる店」になればと願っている。

【データ】▽創業年1966年
▽売場面積1139.6平方メートル
上構成11果物83.0%、果物加工品・菓子10.0%、カキ7.0%
▽従業員15.6人
(食品等流通合理化促進機構「2020年度優良経営食料品小売店等表彰事業 受賞店の概要」より)